



まこと 山田 慎さん

仁愛大学心理学を卒業後、大学院へ進学。卒業後、大学での学びを生かして県内のNPO法人や社会福祉法人などに勤務。その後、母校に戻り心理学の助手を3年間勤め、今春から県内の児童自立支援施設に勤務。臨床心理士。

子どもの頃の興味が仕事に！
今、知識と経験が結びつき、
やりがいになっている。



仁愛大学同窓会『世灯会』がお届けする「卒業生ダイアログ」。今回は、児童自立支援施設に務める山田 慎さんに、大学での思い出や現在の仕事についてお聞きしました。

—仁愛大学の心理学を選んだ理由は？

学生時代にいじめを目の当たりにし、スクールカウンセラーの働きかけ次第で、何かしらできたのではないかと。その頃からスクールカウンセラーに興味を持ち、心理学を学び、資格を取りたいと考えていました。県内で心理学を学べるのはここだけで、友人も多いので仁愛大学を選びました。

—入学前と後、学びのギャップは？

大きかった！心理学は福祉や医療など学ぶ範囲が広く、カウンセラーが対象とするのは健常者だけではないことも初めて知りました。未知の分野ばかりでしたが、だからこそすべてが楽しくて興味深かったです。

—特に印象に残っている学びは？

3~4年時の精神医学です。医療に特化した内容で、コメディカルスタッフとしてのカウンセラーの全体像や現実を知ることができ、自分の中の世界が大きく変わった授業でした。

—大学院進学と母校での助手。理由は？

教育や医療、福祉分野での実践的な学びを求めて大学院へ。その後、施設の立ち上げや社会福祉法人に数年、勤務しましたが、さらなる学びが必要だと実感。そんな時に助手の話をしていただきました。助手をしながら

学びを深めつつ、県内小中高のスクールカウンセラーとしても活動を続けました。

—念願のカウンセラーの仕事です。

スクールカウンセラーの対象は子どもですが、保護者の立場を考え、ニーズにあった対応の重要性を改めて考えさせられました。

—現在の仕事の内容を教えてください。

児童自立支援施設で、最も支援を求めている子ども達と生活を共にしています。先生であり、時には親代わりとして寄り添い、ケアを行っています。

—卒業後、特に役立っている勉強は？

すべてです。心理学の基盤、基礎は大学の学びにあります。そして今、知識と経験がしっかり結びついていると実感しています。

—今後の活動予定は？

近年、ゲーム依存が問題視されています。臨床心理士として、この問題をどう支援していけるかを考えているところです。

—後輩に伝えたいことは？

臨床心理士を目指すなら、何でも挑戦してみてほしい。というのも、すべての人生経験が幅広く役立つ仕事、それが臨床心理士だからです。仁愛大学の先生方は一生懸命で、サポートも手厚くて心強い。充実した大学生活を過ごせると思います。

「苦手な授業は心理学統計法。数字が出てくる部分が難しかったです」と山田さん。最も影響を受けたのは森 俊之先生。「人生も教えていただきました」

Web写真館がOPENしました！

開学20周年を記念して、同窓生の皆さんから募集した写真を集めたWeb写真館がOPENしました。仁大生だった皆さんが在学していた時の懐かしい思い出の写真や、皆さんの知らない仁愛大学の写真などがあるかも。ぜひ一度ご覧になってください!! また、写真はまだまだ募集しており、応募頂いた方全員にクオカード500円分をプレゼント!



<https://www.jindai-dousoukai.jp/20th/>

Facebook 『世灯会』ページに「いいね」を!

『世灯会』Facebookページをご覧ください! イベントや同窓生の今、そして現在の大学の情報などを日々更新しています。



<https://www.facebook.com/jindai.dousoukai>



〒915-8586 福井県越前市大手町3-1-1
仁愛大学同窓会「世灯会」事務局

E-mail dosokai@jindai.ac.jp www.jindai-dousoukai.jp/